令和６年度（令和５年度対象）

当別町教育委員会
点検・評価報告書

令和６年１０月
当別町教育委員会

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（第２６条）の規定に基づき、令和５年度の教育委員会の権限に属する事務の管理と執行の状況について、学識経験者の知見を活用して点検及び評価を行い、作成・公表するものです。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

－ 目 次 －

第１章　点検及び評価の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３頁

第２章　教育委員会の活動状況
　１　教育委員会会議の開催状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４頁
　２　教育委員会会議以外の主な活動状況・・・・・・・・・・・・・・　８頁

第３章　当別町教育推進計画重点的取組の点検及び評価
　１　令和５年度の重点的取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９頁
　２　令和５年度当別町教育推進計画・・・・・・・・・・・・・・・・　９頁
　３　令和５年度の点検及び評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０頁

第１章　点検及び評価の概要

１　点検及び評価の対象

教育委員会の事業は年度単位で執行されているため、教育委員会の点検及び評価は次年度に入ってから行うこととしています。

本年度の点検及び評価は、「令和５年度当別町教育推進計画」の重点的取組に位置付けされた施策を点検項目として選定しました。

２　点検及び評価の内容

教育委員会会議の開催状況、審議案件など教育委員会の活動状況を明らかにするとともに、当別町教育予算の概要の重点施策に位置付けされた施策・事業等の点検及び評価については、個別に取組状況を点検し、成果と課題を踏まえ今後の方向性を明らかにしています。

３　学識経験者の知見の活用

教育委員会の活動状況や施策・事業等の点検及び評価の客観性を確保するとともに、今後の取組に反映させるため、教育に関し学識経験を有する２名から点検及び評価に関する意見をいただきました。

≪学識経験者（敬称略）≫

浜上　尚也　（北海道医療大学教授）

冷川　元彦　（元中学校校長）

４　点検及び評価の公表

点検及び評価の結果をまとめた報告書を当別町議会に提出するとともに、町民に広く公表します。

第２章　教育委員会の活動状況

１　教育委員会会議の開催状況

教育委員会の会議は、地方教育行政法及び当別町教育委員会会議規則に基づき、教育長と４人の教育委員が主要な教育施策の策定、変更及び実施に関すること、教育委員会規則等の制定、教育に関する様々な課題について審議しています。

それぞれの会議においては、事務局から付議案件の提案説明や報告事項等について説明が行われた後、教育長と教育委員による慎重な審議を経て、決定、了解、承認されてきたところです。

さらに、会議以外においては、現場の状況を把握したうえでの審議が行われるよう、学校や教育関係施設の視察、各種行事への参加を行っております。

今日の教育を取り巻く課題は、複雑・多様化しており、今後においても諸課題等に対応した施策の推進に向けて、引き続き十分な審議を行い、地域教育の更なる充実のため、町民の積極的な参画と協働の下、多様で質の高い教育行政を積極的に推進していく必要があります。

⑴　会議の開催状況

教育委員会会議については、当別町教育委員会会議規則第４条第１項の規定に基づき毎月定例会を開催し、また、同条第２項の規定に基づき必要に応じて臨時会を開催しています。

≪令和５年度の会議開催実績≫

①　定例会　　１２回（毎月）
②　臨時会　　１回（令和６年２月）

⑵　会議の審議案件

教育委員会会議での審議案件については、当別町教育委員会事務委任規則第１条の規定に基づき審議しています。

また、同規則に規定されていない事務局報告事項についても、質疑応答を行っています。

≪令和５年度の審議等の実績≫

①　当別町教育委員会事務委任規則第１条に基づく審議案件
・報告案件　２１件
・議決案件　２９件
・協議案件　　９件
②　事務局報告事項　５９件

⑶　審議案件一覧

日　程	審　　議　　案　　件
R5.4.19	**（報　告）** ● 臨時代理の報告について(当別町教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則制定について) ● 臨時代理の報告について(当別町通級指導実施要綱の一部を改正する訓令制定について) ● 臨時代理の報告について(当別町教育委員会個人情報の保護に関する法律等施行に関する規程の制定について) ● 臨時代理の報告について(当別町学校給食費預貯金口座振替納付事務取扱要領の一部を改正する訓令制定について) ● 臨時代理の報告について（教育委員会事務局職員の人事異動について） ● 臨時代理の報告について（当別町社会教育委員会委員の解職について） ● 臨時代理の報告について(当別町学校給食センター運営委員会委員の解職について) ● 臨時代理の報告について(当別町要保護児童対策地域協議会委員の委嘱について) ● 臨時代理の報告について（当別町立西当別小学校・西当別中学校区域学校運営協議会委員の解職について） **（議　案）** ● 当別町社会教育委員会委員の委嘱について ● 当別町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について ● 当別町立西当別小学校・西当別中学校区域学校運営協議会委員の委嘱について ● 第１地区教科用図書採択教育委員会協議会委員の選任について
R5.5.17	**（報　告）** ● 臨時代理の報告について（当別町子ども・子育て会議委員の解職について） ● 臨時代理の報告について（当別町子ども・子育て会議委員の委嘱について） ● 臨時代理の報告について（当別町子ども・子育て会議委員の解職について） ● 臨時代理の報告について（当別町子ども・子育て会議委員の委嘱について） ● 臨時代理の報告について（当別町教育支援委員会委員の委嘱について）
R5.6.28	**（報　告）** ● 臨時代理の報告について（令和５年度６月補正予算について）
R5.7.19	**（議　案）** ● 当別町立とうべつ学園区域学校運営協議会委員の委嘱について
R5.8.23	**（報　告）** ● 臨時代理の報告について(当別町立とうべつ学園区域学校運営協議会委員の解職について) **（議　案）** ● 令和６年度に使用する小学校用及び義務教育学校前期課程用教科用図書の採

	択について ● 令和６年度に使用する中学校用及び義務教育学校後期課程用教科用図書の採択について ● 令和６年度に使用する小学校、中学校及び義務教育学校特別支援学級用教科用図書の採択について **（協　議）** ● 当別町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について ● 令和５年度９月補正予算について
R5.9.27	**（報　告）** ● 教育委員会委員の任命について
R5.10.11	**（報　告）** ● 令和５年度全国学力・学習状況調査結果報告書の作成について
R5.11.15	**（議　案）** ● 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について **（協　議）** ● 当別町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例の一部改正について ● 令和５年度１２月補正予算について
R5.12.20	**（議　案）** ● 当別町文化財調査審議会委員の委嘱について ● 当別町学校給食センター運営委員会委員の委嘱について
R6.1.17	**（報　告）** ● 臨時代理の報告について（教育委員会事務局職員の人事異動について） **（議　案）** ● 令和５年度教育委員会表彰の被表彰者の選考及び決定について ● 当別町立学校職員の自家用車の公用使用に関する要綱の一部を改正する訓令制定について
R6.2.21	**（議　案）** ● 教職員の人事異動内申について **（協　議）** ● 西当別小・中学校エアコン設置工事請負契約について ● 令和５年度３月補正予算について ● 令和６年度教育行政執行方針について ● 令和６年度当初予算について ● 当別町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について

R6.2.29	**（議　案）** ● 教職員の人事異動内申について
R6.3.27	**（報　告）** ● 令和５年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書の作成について ● 臨時代理の報告について（当別町立西当別小学校・西当別中学校区域学校運営協議会委員の解職について） **（議　案）** ● 当別町立学校管理規則の一部を改正する規則制定について ● 当別町立学校児童生徒通学区域に関する規則の一部を改正する規則制定について ● 当別町教職員住宅管理規則の一部を改正する規則制定について ● 当別町教育委員会公印規則の一部を改正する規則制定について ● 当別町要保護及び準要保護児童生徒就学援助規則の一部を改正する規則制定について ● スクールバス管理運営規則の一部を改正する規則制定について ● 当別町学習者用情報機器貸出規則の一部を改正する規則制定について ● 当別町家庭学習用通信機器貸出規則の一部を改正する規則制定について ● 教職員住宅の臨時的入居に関する規程の一部を改正する訓令制定について ● 当別町特別支援学級等通学援助費支給要綱の一部を改正する訓令制定について ● 当別町教育委員会後援取扱規程の一部を改正する訓令制定について ● 小中学生のスポーツ大会参加事業助成要綱の一部を改正する訓令制定について ● 当別町学校給食事務取扱要綱の一部を改正する訓令制定について ● 当別町私立幼稚園特別支援教育費補助金交付要綱を廃止する訓令制定について

２　教育委員会会議以外の主な活動状況

令和５年度の主な活動状況については、下記のとおりです。

	開　催　日	会　議　名　等
会議等	令和５年　４月　９日	石狩管内教育委員会教育長会議
	令和５年　６月２２日	児童生徒指導連絡協議会総会
	令和５年１０月１９日	学力に関する教育長会議（オンライン）
	令和５年１２月１８日	石狩管内学校における働き方改革推進会議
研修等	令和５年　８月　３日	石狩管内教育講演会
	令和５年１０月１１日	教育委員会研修会 （令和５年度点検評価について）
	令和５年１０月２５日	教育委員会視察研修会 （安平町の教育について） （安平町立早来学園について）
行　事	令和５年　４月　７日	とうべつ学園・西当別小学校・西当別中学校入学式
	令和５年　５月２７日	西当別中学校　第６１回体育大会
	令和５年　６月　３日	西当別小学校　第７３回運動会
	令和５年　９月　２日	とうべつ学園　第２回スポーツフェスティバル
	令和５年　９月３０日	とうべつ学園（５～９年生）　第２回学園祭 西当別中学校　第６０回西中祭
	令和５年１０月２２日	当別スウェーデンマラソン２０２３
	令和５年１０月２８日	とうべつ学園（前期）　第２回学習発表会 西当別小学校　第７２回学芸発表会
	令和６年　１月　７日	令和６年　当別町はたちのつどい
	令和６年　２月１７日	令和５年度　当別町教育委員会表彰式
	令和６年　２月２３日	令和５年度　当別町少年の意見発表会
	令和６年　３月１２日	とうべつ学園　第２回卒業証書授与式 西当別中学校　第７７回卒業証書授与式
	令和６年　３月１９日	西当別小学校　第７３回卒業証書授与式
当別町議会（※）		

（※）教育長出席

第３章　当別町教育推進計画重点的取組の点検及び評価

１　令和５年度の重点的取組

分　　野	重　点　的　取　組	頁
学力向上	①　学ぶ意欲を引き出す主体的・対話的で深い学びの授業改革	１０
学校と地域による連携	①　いじめ防止・不登校等の多様化する児童生徒指導対応 ②　地域に応援される開かれた学校の実現	１５ １７
子育て支援	①　幼保小の円滑な接続と関係機関との連携	２０

２　令和５年度当別町教育推進計画

3　令和５年度の点検及び評価

担当課　　学校教育課

<table>
<tr><td>点検項目</td><td>『学力向上』</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td>学ぶ意欲を引き出す主体的・対話的で深い学びの授業改革</td></tr>
<tr><td>課題へのアプローチ</td><td>１　課題探求型授業への転換
２　個別最適、協働的な学び（習熟度に合わせた対応）
３　ＩＣＴの利活用
４　学びの基盤固め
<table>
<tr><th>学　　校</th><th>教育委員会</th></tr>
<tr><td>・授業改革の実践
・タブレットの日常活用
・ＡＩドリルやＩＣＴ機器の利活用
・地域資源を生かした
「とうべつ未来学」の推進
・家庭学習の拡充</td><td>・ＩＣＴ支援員巡回指導
・ＡＩドリル等の導入
・とうべつ未来学コーディネーターの配置
・キャリアノートのデジタル化へ向けた調査研究
・教職員の資質向上に向けた研修</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>具体的取組</td><td>⑴　授業改革の実践
・小学校の一部の教科で、教科担任制を実施した。
【実施教科】
西当別小学校：理科（５・６年）、体育（４・５・６年）
とうべつ学園：国語（５年）、算数（５年）、理科（５・６年）、英語（５・６年）、図工（５・６年）、家庭（５・６年）、体育（４・５・６年）、音楽（６年）
・各学校で、ＩＣＴを活用した教育の推進を研究テーマに取り入れ、個別最適な学びの実現に取り組んだ。
・「全国学力・学習状況調査」では、令和５年度の状況として、児童・生徒質問紙調査で「５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の設問に「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、小学校・中学校ともに全国平均を上回り、学校質問紙調査で「調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」の設問に、小学校・中学校ともに全ての学校が「そう思う」または「どちらかといえば、そう思う」と回答するなど、学ぶ意欲を引き出す授業改革に各学校が取り組んでいる課題探求型授業への転換が進んでいることが伺える結果となった。

⑵　タブレット（Ｃｈｒｏｍｅｂｏｏｋ）の日常活用
・各学校で、始業前にＣｈｒｏｍｅｂｏｏｋの活用スキル向上のための時間を設定するなど、日常的に活用するための取組を実施した。</td></tr>
</table>

・各学校で、各教科の授業のみでなく、旅行的行事のまとめや委員会活動の場面でも、Ｃｈｒｏｍｅｂｏｏｋの活用を進めた。
・「全国学力・学習状況調査」では、令和５年度の状況として、児童・生徒質問紙調査で「５年生まで（１、２年生のとき）に受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか」の設問に「ほぼ毎日」と回答した児童生徒の割合が、小学校では全国平均を上回り、中学校では全国平均を０．５ポイント下回る結果となり、学校質問紙調査で「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどの程度活用しましたか」の設問に、小学校・中学校ともに全ての学校が「ほぼ毎日」と回答するなど、ＩＣＴの日常活用が進んでいることが伺える結果となった。

⑶　ＡＩドリルやＩＣＴ機器の利活用／ＡＩドリル等の導入
・「デジタル田園都市国家構想交付金」を活用し、ＡＩドリル「ミライシード」を新たに導入するとともに、全ての町立学校に電子黒板を整備した。
・「ミライシード」や「ＭＥＸＣＢＴ」（文部科学省ＣＢＴシステム）などのＣＢＴ教材を授業や家庭学習で活用した。
・学習指導の参考資料として、学年ごとのＣｈｒｏｍｅｂｏｏｋアプリ等の町内共通の活用目標を作成し、各学校で活用した。

⑷　地域資源を生かした「とうべつ未来学」の推進
各校の実態に沿って、ふるさと当別を知り、とうべつの未来について考える教科横断的な学習を推進した。また、当別町一貫教育推進委員会で、各校の実施状況や次年度以降の実施見通しについて、学校間で意見交換した。

【主な実施内容】
・稲作体験（小学校３年生）
・大豆生産体験（小学校４年生）
・スウェーデン交流センター訪問（小学校５年生）
・ブンネ楽器（スウェーデン発祥の楽器）体験授業（西当別小学校５年生）
・とうべつ未来学講座（高木慶太氏（町出身のチェロの演奏家）によるキャリア教育授業、とうべつ学園全学年）
・ＪＩＣＡ出前授業（小学校６年生、中学校１年生）
・当別町についての調べ学習、フィールドワーク、発表（中学校１～３年生）
・職業体験（中学校２年生）
主な体験場所：当別町内の教育施設・介護施設・郵便局・飲食店・小売店・建設会社・自動車整備会社　など
・道教委「北海道ふるさと教育・観光教育等推進事業（観光教育）」協力校に指定（とうべつ学園）

	⑸　家庭学習の拡充 ・家庭学習の効果やポイントについてまとめた「家庭学習サポートブック」を作成し、保護者に配布した。 ・各学校でＣｈｒｏｍｅｂｏｏｋの持ち帰りを実施し、家庭学習で「ミライシード」などに取り組んだ。 【Ｃｈｒｏｍｅｂｏｏｋ持ち帰り状況】 平日週３日以上、休日、長期休業中 ・「全国学力・学習状況調査」では、令和５年度の状況として、児童・生徒質問紙調査で「学校の授業時間以外に、普段、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の設問に「１時間以上」と回答した児童生徒の割合が、小学校では全国平均を上回ったが、中学校では全国平均を下回る結果となった。 ⑹　ＩＣＴ支援員巡回指導 町内各学校においてＩＣＴ機器を活用した授業の支援、教職員へのＩＣＴ機器の活用方法の指導や、ＩＣＴ機器等の不具合対応・管理等の支援を実施した。 ⑺　キャリアノートのデジタル化へ向けた調査研究 キャリアノートのデジタル化を実施している自治体への聞き取り調査を実施し、デジタル化による成果と課題を整理した。 【デジタル化による主な成果】 ・紙ファイルの保管場所を減らせる。 ・１人１台端末の活用促進につながる。 ・デジタル化により、記録や振り返りでの使用が容易になる。 【デジタル化にあたっての主な課題】 ・これまで紙で作成したものをどのようにデジタル化するか。 ・転出入時・高等学校進学時への引継ぎをどのようにするか。 ⑻　教職員の資質向上に向けた研修 学校の長期休業中に、今日的な教育課題をテーマとした町教委主催研修を開催した。 【令和５年度に開催した研修のテーマ】 夏季休業中：「支援が必要なケースへの対応について」「体育の実技指導について」「当別町歴史講座」「ＡＩドリルの活用について」 冬季休業中：「ＩＣＴを活用した働き方改革について」「外国人児童生徒への対応について」
達成状況	達成に向け進展があった。
課題と今後の対応方法	・　「ミライシード」の活用状況について、目標としていた活用日数（授業日数の１/３以上）に届かなかったことから、管理職会議や研修等の機会を通じて、「ミライシード」の有効な活用方法について、教職員の理解促進を図る。

	・　とうべつ未来学については、関連予算の確保、学習テーマの掘り起こしなど、授業実施に向けた学校への支援を継続する。 ・　家庭学習習慣を定着させるよう、引き続き家庭への啓発に取り組む。
外部評価者の意見	・　探求型授業により課題解決能力が身に付いたことは大きな進展である。ＳＧＤ（Ｓｍａｌｌ　Ｇｒｏｕｐ　Ｄｉｓｃｕｓｓｉｏｎの略）を取り組みに加えることで、コミュニケーション能力も育むことができると考える。 ・　ＣＢＴ教材を利用することは、基礎学力を養うことができると考えることから、一定の学力を向上させることの意義は大きい。 ・　体験型学習より得られる知識は大きいと考えるが、学習前にワークショップを取り入れることで、目的を明確にすることができ、さらなる発展が期待できる。 ・　図書館などの環境を整備して学習に取り組む場所や時間をさらに多くする方策を考える必要がある。 ・　ＩＣＴ学習を進めるうえで物理的な体制が整っていることは大きく評価できる。 ・　デジタル化の利便性は高いが、ものを書くことも平行して行うことでまとめる能力が高まると考える。取り入れることを検討してほしい。 ・　教員が研修をすることは重要であるが、テーマによっては座学のみではなくワークショップを取り入れることも必要である。 ・　学習のテーマの掘り起こしを考えるうえで、アンケートなどを実施して広く情報を収集してはどうか。 ・　家庭学習習慣の定着では、ＩＣＴによる課題（宿題）は、グーグルフォームなどを利用して回答させることにより、学習意欲の向上や教員の負担軽減にも繋がると考える。
	・　授業改革の実践について、小学校の教科担任制が進んでいることは、先生方の専門性を生かし、子ども達の学びの充実を図るうえでとても良いと考える。 ・　地域資源を生かした「とうべつ未来学」の推進について、教科横断的なふるさと教育はとても意義深く、幅広い実践内容は子ども達にとって大きな喜び、財産になると考える。一方で、今日の社会は急速に変化、発展していることから、将来に向けた新たな学習内容が求められる。一つは「金融教育」である。家庭や社会生活における消費、経済、金融、貯蓄等について基礎的な知識を身につけさせ、自己の将来設計などについても自ら考え実践できるよう各教科、道徳、総合的な学習の時間で取り上げていくことが望まれる。もう一つは「性教育」である。性の多様化、性暴力や性感染症、性犯罪の多発など、子どもを取り巻く環境は変化し、多様化している。児童生徒の人格の完成を目指す「人間教育」の一環として、積極的に取り組む必要があると考える。 ・　教職員の資質向上に向けた研修について、外国人の児童生徒が増え、先生方が苦労されていると聞いている。具体的な人数や現状については把握してないが、外国人児童生徒の学ぶ権利を保障しつつ、在籍している児童生徒のそれもしっかり守らなければならない。なかなか難しい課題ではあるが、みんなが笑顔で学校生活を過ごせるよう願っている。

	・　家庭学習習慣の定着について、家庭学習の定着が今一歩ということであるが、学ぶ喜びを実感させるような取り組み、あるいは、子ども達一人ひとりが将来の夢を持ち、それを実現させるために今、何をすべきかを考えることができれば、毎日の学習や生活にも変化が出てくるのではないか。「大谷ノート」などは、面白いと考える。

担当課　学校教育課・社会教育課

<table>
<tr><td>点検項目</td><td>『学校と地域による連携』</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td>いじめ防止・不登校等の多様化する児童生徒指導対応</td></tr>
<tr><td>課題へのアプローチ</td><td>1　専門的知見の活用と対応
2　困り感のある児童生徒、家庭への支援
<table><tr><th>学　　校</th><th>教育委員会</th></tr><tr><td>・困り感に寄り添った児童生徒、家庭との連携協力
・チームによる組織対応
・登校渋りの早期発見と対応
・ＳＳＷ、ＳＣの活用</td><td>・校内適応指導教室の検討
・学校へＳＳＷ、ＳＣの巡回支援
・登校渋りのある児童生徒への初期対応
・適応指導教室の適切な接続
・大学との連携による人材確保</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>具体的取組</td><td>⑴　困り感に寄り添った児童生徒、家庭との連携協力
・チームティーチングや通級指導教室など児童生徒の状況に合わせた指導を行う体制を構築した。
・保護者との面談等にスクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）が入ることにより児童生徒の抱える課題について共有した。

⑵　チームによる組織対応
学校において、いじめ・不登校等の対策のための委員会等を設置し、チームとして対応にあたった。

⑶　登校渋りの早期発見と対応／登校渋りのある児童生徒への初期対応
日常の教育相談や生活（いじめ）アンケートを実施し、児童生徒の困り感や登校渋りの早期発見を行うとともに、スクールカウンセラー（ＳＣ）やスクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）と連携して初期対応に取り組んだ。

⑷　ＳＳＷ、ＳＣの活用／学校へＳＳＷ、ＳＣの巡回支援
学校における諸問題への早期発見と対応に向け、ＳＣやＳＳＷを各校へ巡回・派遣し、初期対応の早期化やこれまでの事案に対する関係機関との連携や調整等の取組を進めた。

⑸　校内適応指導教室の検討
学校と連携し、とうべつ学園に校内適応指導教室「からふる」を試行的に設置した。また、その実例を踏まえ、他校への設置を検討した。</td></tr>
</table>

	⑹　適応指導教室の適切な接続 ・学校や保護者、ＳＳＷ、ＳＣからの相談を元に、校外適応指導教室「レインボー」への通級を進める等の支援を行った。 ・西当別地区への校外適応指導教室の設置に向け検討・準備した。 ⑺　大学との連携による人材確保 専門的知見の活用に向け、学校医・学校歯科医や各種委員会委員に各種大学の医師等を委嘱し、人材確保に努めた。
達成状況	達成に向けて進展があった。
課題と今後の対応方法	・　引き続き児童生徒の社会的自立を支援する。児童生徒の複雑・多様化するニーズに対応する体制の構築のため、西当別地区の不登校児童生徒の支援に向けて校内外の適応指導教室の設置に取り組むとともに、当別地区の適応指導教室との連携・協力により支援の充実を図る。 ・　子どもを取り巻く複雑・多様化する生徒指導対応において、正確な情報収集が求められている。そのため、情報収集の精度が高いＷｅｂＱＵ導入に取り組む。
外部評価者の意見	・　多職種が連携して児童生徒の指導に対応していることは、重要なことであり評価できる。 ・　指導内容を記録し共有することは重要と考えるが、事例における内容を記録する体制は整っているか。 ・　不登校児童生徒の気質等をデータとして共有しておくことにより、各事例の対応に繋がるため、有用な方策は組まれているか。 ・　不登校児童が気軽に相談できる体制が、整っていることが必要である。メールなど非対面での相談受付もあると効果的であると考える。 ・　登校渋りの早期発見と対応について、ＳＣやＳＳＣの活用、関係機関との連携を積極的に進めていることは評価できる。今後は、より一層一人ひとりに寄り添った取り組みを期待する。 ・　とうべつ学園での校内適応指導教室の開設は意義あることと考える。登校渋りと同様、現状はよくわからないが、子ども達の学びをしっかり支えていただきたい。 ・　子ども達の学びの場を保障するために、適応指導教室設置や指導体制の充実に積極的に取り組まれていることは高く評価できる。ただ、達成状況において「進展があった」ということは、体制づくりの面では理解できるが、保護者や子どもたちの立場ではどうだったのかという視点でも考えていってはいかがか。

担当課　学校教育課・社会教育課

<table>
<tr><td>点検項目</td><td>『学校と地域による連携』</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td>地域に応援される開かれた学校の実現</td></tr>
<tr><td>課題へのアプローチ</td><td>１　地域資源を活用した「とうべつ未来学」への連携
２　学校図書館の運営支援
３　地域連携プログラムの充実
<table><tr><th>学　　校</th><th>教育委員会</th></tr><tr><td>・外部人材を活用した体験活動
・「とうべつ未来学」での人材活用
・ＣＳの積極的な活用と参画
・読書活動の推進
・学びのハンドブックの保護者周知</td><td>・学びのハンドブックの手引作成
・プログラミング教室の実施
・地域食材を生かした食育推進
・外部人材の発掘と周知
・土曜教室、放課後学習会
・イングリッシュプロジェクト
・地域の団体との連携強化
・不登校、いじめ問題の相談体制の充実</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>具体的取組</td><td>⑴　外部人材の発掘と周知／外部人材を活用した体験活動
学校支援では、読み聞かせ、水泳学習、スキー学習など地域人材が講師となり授業等を行った。土曜教室においてはパステルアート、当別町の歴史学習、折り紙体験など、地域の人材を活用した様々な体験活動を行った。学習支援ボランティアの発掘に努め、新規６名の登録があり計１０５名が登録した。

⑵　「とうべつ未来学」での人材活用
とうべつ未来学では、ＪＡ北石狩青年部や当別土地改良区と連携した「稲作体験」「大豆生産体験」、当別エコロジカルコミュニティーと連携した「自然学習」など、様々な地域の機関や人材を活用して授業を行った。

⑶　ＣＳの積極的な活用と参画
学校支援や学校評価、交通安全活動、子どもの見守り活動など、地域住民が学校運営に参画することで、子ども達の学びや体験活動を充実させることができた。

⑷　読書活動の推進
ＰＯＰコンテストは、自分のおすすめ本を魅力的に紹介する取組みで、幼児から中学生を対象に募集し１３４点の出品があり、読書活動の推進を図った。「うちどく通信」は、新刊図書の紹介やイベント周知など毎月１回計１２回発行し、読書活動を啓発した。
学校図書館支援活動として、図書館司書等を計９６回派遣し、図書整理、貸出業務等の支援を行った。</td></tr>
</table>

⑸　学びのハンドブックの手引作成／学びのハンドブックの保護者周知

「学びのハンドブック活用の手引き」を作成し、保護者に配布するとともに、町ＨＰ上で公開した。

⑹　プログラミング教室の実施

プログラミングに関する興味関心を引き出すとともに、デジタルスキルの習得をすることを目的としたプログラミング教室を開催し、問題解決能力、論理的思考力を養うことができた。

夏季：８月　４日（金）、　９日（水）小３～６対象　募集定員１５名　１１名参加

冬季：２月１０日（土）、１１日（日）小３～６対象　募集定員１５名　１０名参加

⑺　地域食材を生かした食育推進

食育推進事業として、当別産食材のほかに愛媛県宇和島市産（姉妹都市）の食材や旬の食材を使用した「とべっこランチ」の提供を月１回行った。当別産食材を使用した、米粉パンや手作りハンバーグ、デザート等を提供した。

当別産の野菜についても、ほうれん草、ズッキーニなどを初めて使用し、８月の「とべっこランチ」では、すべて当別産食材を使用した『とべっこカレー』を提供した。

また、広報係の協力のもと、１年間通した「とべっこランチ」の特集を広報誌で行い、食育推進事業のＰＲを図った。

⑻　土曜教室、放課後学習会

・土曜教室は、体験学習を通して、町内小学生の学習に対する興味関心を喚起し、自発的な学習への取り組みを促進した。

航空自衛隊当別分屯基地見学、伊達山遺跡見学、百人一首教室など

計１０回開催　小学生対象　延べ１１３名参加

・放課後学習会は、放課後に行う自主学習をサポートし、基礎学力の向上並びに学習習慣の定着を図った。

計１１８回開催　小中学生対象　延べ２，０６２名参加

⑼　イングリッシュプロジェクト

日本人講師、外国人講師、留学生と児童・生徒、保護者が英会話レッスンや交流会を通して、楽しく英語や外国文化を学習体験した。

計７回　小中高校生、一般対象　延べ５２名参加

⑽　地域の団体との連携強化

当別高校や北海道医療大学、日本体育大学、総合型地域スポーツクラブなど町内外の関係団体と連携し各種事業を開催した。文化協会、スポーツ協会、子ども会育成連合会など社会教育団体と連携し、地域の人材を活かした事業の展開と、生涯学習の機会を創出した。

	⑾　不登校、いじめ問題の相談体制の充実 　少年指導センターでは、専任指導員を配置し、不登校やいじめ問題など様々な悩みを抱えた子どもや保護者からの電話相談や面談相談を受ける体制を整備した。
達成状況	達成に向け進展があった。
課題と今後の対応方法	・　引き続き外部人材の発掘と活用を進める。各関係機関との連携を深め、各機関の特色を生かした学習の機会をつくり、生涯学習の推進を図る。 ・　見やすい「うちどく通信」の発行により、各家庭に対して継続的に啓発活動を行う。企画展の開催やおすすめ本の紹介などにより、図書館の利用者増、貸出冊数増を目指す。 ・　土曜教室では、町内外の施設等の見学・実習が好評である。ニーズが高い内容を中心に事業を展開する。
外部評価者の意見	・　地域人材を確保し、活用ができていることは評価が高い。 ・　有用な生涯学習が多く展開され、今後に発展する内容であると考えられる。 ・　実施した事業を評価することが必要であるが、解析結果をどの様に活用しているか。 ・　食育の促進への取り組みについて内容は充実しているが、効果をどの様な尺度で評価しているか。 ・　「うちどく通信」などの周知範囲を拡大してはどうか。 ・　参加者が多い（人気度の高い）事業に関しては、対応人数や回数を増やすなどの対策をとってはどうか。 ・　「とうべつ未来学」での人材活用について、当別は農業の町であるが、稲作体験や大豆生産体験はとても良いと考える。加えて、当別は「花の町」でもあるので是非、花に関わる体験もさせてほしい。そして、子ども達の学習が家庭や地域にも広がり、どこの家庭、どこの街路にも花が咲いているというようになれば、名実ともに「花の町とうべつ」になれる。 ・　読書活動の推進について、読書の有意性は言うまでもない。「うちどく通信」などの情報提供はとても大事である。「お薦めの本」の紹介は、子どもたち自らはもちろんであるが、保護者や司書からの「読ませたい本」として紹介する部分を充実させることも望まれる。情報提供は一方通行になりがちであるが、今後は双方向からの展開も検討してもらいたい。 ・　土曜教室、放課後学習会について、土曜教室の体験活動、放課後学習会の自主学習サポートも素晴らしい実践だと考える。基礎学力の向上並びに学習習慣の定着を図ったとあるが、その成果はどのような方法で捉えているのか。また、放課後学習会で先生方との連携は図られているのか。今後の課題として考える必要があるのではないかと考える。 ・　イングリッシュプロジェクトについて、貴重な体験の場として継続してほしい。生の外国語を聞いたり、自ら外国語を話す楽しさをいっぱい味わってほしいし、これを機に外国への興味関心が広がると良いと考える。もう少し参加者が増えると良い。

担当課　　子ども未来課

<table>
<tr><td>点検項目</td><td>『子育て支援』</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td>幼保小の円滑な接続と関係機関との連携</td></tr>
<tr><td>課題へのアプローチ</td><td>1　幼保小接続プログラムの確実な推進
2　要支援児童の家庭支援
3　幼児教育・保育施設の充実
<table><tr><th>学　　校</th><th>教育委員会</th></tr><tr><td>・幼保との連携と交流
・認定こども園、子ども発達支援センターとの連携
・子どもの変化の早期発見と対応</td><td>・待機児童発生の抑制
（加配保育士の配置）
（園舎整備における支援）
・幼保小による研修開催
・認定こども園と学校、保護者との情報共有
・児童虐待防止や発生時における関係機関との調整</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>具体的取組</td><td>⑴　認定こども園及び小学校の連携の促進、各関係機関との情報共有の場の創出
「幼保小接続プログラム推進会議」を１回開催し、新１年生の情報を中心に情報共有を行った。また、子ども発達支援センターや庁内関係機関（学校教育課、保健福祉課、介護課）と連携し、子どもの状況を把握した上で、「障がい児保育検討委員会」を３回開催し、心身に障がいや発達の遅れがあり、特別な支援を必要とする児童についての情報交換がなされ、認定こども園から小学校への接続が円滑に行われた。

⑵　子どもの変化の早期発見と対応/児童虐待防止や発生時における関係機関との調整
児童相談所、福祉部、学校、スクールソーシャルワーカーと情報共有し、関係機関の役割分担を調整し、連携して見守りや訪問など行い、児童や家庭の支援を実施した。
相談件数：４５件

⑶　待機児童発生の抑制（園舎整備における支援、加配保育士の配置）
・認定こども園おとぎのくに施設整備事業
太美地区における子育て世帯の増加及び保育ニーズの高まりに対応するため、認可定員の増員を目的とした園舎建替費用を運営法人に補助することで、待機児童の発生を抑制することができた。
・保育体制充実事業の拡大
国の基準を超えて配置している保育士等の補助対象人員を、従来の 1 人から３人へ増やすことで、認定こども園の認可定員の拡大や年度途中入所に対応するとともに、保育の質の向上及び保育体制の充実を図った。</td></tr>
</table>

	⑷　幼児教育・保育施設の充実（認定こども園プログラミング導入事業） 　幼児期よりデジタル教材やプログラミングに触れる機会を設けるため、町内認定こども園が取り組む幼児プログラミング事業の機材整備等導入経費の補助を行った。
達成状況	達成した。
課題と今後の対応方法	・　保育士確保については引き続き課題となっていることから、町の認定こども園で働くことの魅力やメリット等が他市町村と差別化が図られるよう、既存事業の見直しや新たな支援策を検討する。 ・　子育て家庭に対して切れ目ない相談・支援体制の構築を図る。 ・　子ども未来課は、令和６年度より町福祉部へと移管となった。
外部評価者の意見	・　子育て支援において、各方面で充実を図っていることの効果（評価）は大きいと考える。 ・　相談に応じた内容を共有するシステムを構築することにより、対応もスムーズに実施されると考えるが現状はどうか。 ・　心身の障がいや発達が遅れている子どもへの対応策を講じる必要がある。 ・　プログラミング導入の効果はどの様なものであったか。 ・　認定こども園及び小学校の連携促進、各関係機関との情報共有の場の創出について、「幼保小接続プログラム推進会議」の開催は、とても意義深いと考える。先生方は多忙で話し合いの時間を確保するのは大変だと思うが、学期に１回くらいは、子どもの学習の様子を見てもらいながら、取り組みの成果と課題を共有し、連携をさらに深める場として設定してはいかがか。

外部評価者の総合評価	・　各分野ともに目的に沿って事業が遂行されており、報告された内容は評価できる。さらに、今後に向けて発展性のある内容かつ課題解決のために継続して方策が必要な内容も講じられており、今後も継続して取り組んでいただきたい。 ・　当別町は人口減少が続いており、数年後には医療大学が移転することになっている。魅力ある当別を築き、当別への転入人口を増やすためには、教育の果たす役割も大きいと考える。自然を含めた教育環境は素晴らしいと思うので、教育費の無償化拡大、魅力ある教育活動（アピールポイント）をＰＲ（例えば、高い学力、英語教育活動、部活動、特色ある体験活動等々）するなど他市町村に自慢できる教育は当別ならできると考える。当別町の教育が今後益々発展することを心から願っている。